

ご挨拶

日本医科大学千葉北総病院

事務部長 石井 勝則 (いしい かつのり)

秋涼の候、諸先生におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

漸く朝晩は秋の気配が漂い幾分過ごしやすい季節となりましたが、今夏を振り返りますと猛暑続きでウンザリされたことと思います。7月下旬の梅雨の明けを待っていたかのように連日猛暑日（最高気温が35度以上）が続き、気象庁では「2012年夏猛暑日日数ランキング」を発表するほどの異常気象となりました。全国で多くの熱中症患者が発生する事態となる中、各先生方におかれましては診療に多忙を極めたことと推察します。

本年度の診療報酬改正に於いて、全国のDPC対象の1,505病院をその機能等から3つの医療機関群に区分されることになりました。当院は高診療密度病院群に当たる「Ⅱ群」に組み入れられたことに伴い、これまで以上に地域の医療機関の先生方と緊密な連携関係を構築するとともに地域完結型医療を目指す所存です。

さて、話題が変わりますが昨年8月に電子カルテを導入し1年を経過し順調に稼働しています。導入の際は近隣の先生方に様々なご配慮とご協力をいただきましたこと、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

近況としましては、昨年12月に千葉県から「がん診療連携協力病院」の認定を受け、肺がん・大腸がん・胃がんの特定3疾病の指定を受めました。加えて子宮がんにおいても既に指定条件が整っていることから近々に県への指定申請を行う予定となっております。今後も継続してがん診療連携協力病院として先生方と強固な連携をお願いいたしたく存じます。

院内的取り組みとしては、歯科を有する当院の強みを最大限に発揮し、歯科医が関わる周術期医療の充実を目指します。具体的には、誤嚥性肺炎などの軽減を目的とした口腔機能管理を外科系診療科と協働するチーム医療の展開や、化学療法を受ける患者さんにも同様の口腔機能管理を実施し合併症の予防に努める等が挙げられます。今後は歯科の係る領域を拡大し、より安全でより安心な入院環境を整備する所存です。

また、医療連携活動としては、去る8月には印旛市郡医師会の働きかけにより、当院を含む3つの基幹病院が集い、第1回印旛市郡基幹病院連絡協議会が開催されました。これを機に地域医療連携が更に活発化し、あらたな医療連携の枠組みが生まれるものと期待するとともに、地域医療連携の重要性を改めて認識した次第です。

連携機能の必要性が叫ばれる昨今、当院では地域医療連携活動を目的とした連携登録医療機関数が420（歯科医院72医療機関含む）を超えるまでとなりました。更には千葉県共用の地域連携パスの運用実績についても約300病院の先生方とパスを運用するまでに至りました。これも偏に地域の諸先生方からの厚いご支援の賜物と職員一同深く感謝申し上げます。

さて、恒例ですが患者さんをご紹介頂きました件数等を下表のとおりご報告させていただきます。毎年多くの先生方から患者さんのご紹介をいただき誠に有難うございます。

これからも地域医療への貢献に全精力を傾けて病院運営をしてみたいと思いますので、益々のご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【過去3年間の紹介「医療機関数とご紹介数」】

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度対前年	平成23年度対前年
医療機関数	1,790件	1,824件	1,769件	101.9%	97.0%
紹介患者数	12,482件	12,610件	12,449件	101.0%	98.7%



ご挨拶

消化器内科 部長 **岩切 勝彦** (いわきり かつひこ)

爽やかな秋を迎え、近隣のご施設、先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて私儀ではございますが、平成24年6月1日をもって、消化器内科部長に就任いたしました。1986年に日本医科大学を卒業後、付属病院第3内科（消化器内科部門）入局し、消化器疾患の診療に携わり、2004年からは付属病院内視鏡センター室長として務めてまいりました。

千葉北総病院消化器内科は、現在、医師6名、専修医2名の計8人のスタッフにて消化管、肝胆膵と幅広い分野の診療を行っております。消化器疾患の全領域をカバーするには十分な人員とは言える状況ではありませんが、各診療科と協力し千葉北総病院発展のために、微力ながら重責に身を引き締め、専心努力いたす所存でございます。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

私は、胃食道逆流症（GERD）の病態・治療、食道運動異常症の診断・治療を研究テーマとして研究を行って

まいりました。付属病院では多くの治療抵抗性GERD患者さんや原因不明の嚥下困難の患者さんをご紹介頂き、病態に基づく治療を行い良好な治療成績が得られております。千葉北総病院におきましても7月より、「胸やけ・つかえ外来（水曜午後）」を開設し、新規導入いたしました最新の高解析食道内圧検査、食道pH・インピーダンス検査を行い、患者さんの病態を把握し、適切な治療を行ってまいりたいと考えております。治療抵抗性GERD患者さんや原因がわからない「つかえ感」を有する患者さんがおられましたら是非、ご紹介をお願い申し上げます。



新任のご挨拶

外科学教授・消化器センター長 **宮下 正夫** (みやした まさお)

夏の暑さもやっと一息ついたこの頃ですが、近隣の御施設、先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、このたび当院消化器センター長に就任させていただきました。これまでの20年間は日本医科大学付属病院で食道がん、胃がんなどを専門に消化器外科医として勤務してまいりました。また、最近の2年間はがん診療センター部長として地域がん診療連携拠点病院である付属病院のがん診療全般にわたる仕事に従事しておりました。これらの経験をもとに、日本医科大学千葉北総病院の消化器疾患、消化器がん医療がさらなる発展を遂げますように精一杯努力する所存です。このたび、消化器内科が充実するに当たり、私ども外科との間に垣根のない診療体制を消

化器センターとして機能させ、さらに高度の医療を提供していきたいと考えております。

がん治療を例にあげても、化学療法、内視鏡的治療、外科治療、放射線治療、緩和医療など集学的な治療戦略のもとで治療を行っていかねばなりません。これまでも、内科、外科では消化器を専門とする優秀な人材が診療に当たってまいりましたが、これからは、新たな消化器センターの診療体制のもと、患者様の健康回復に少しでもかかわれますように、そしてご紹介頂いた先生方のご信頼にこたえられますように取り組んでいきたいと考えています。北総の地にまだ不慣れな私ではありますが、医療連携を深めて先生方と共により良い医療環境を作っていききたいと思います。何卒、ご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

スポーツ医学発祥の地は日本医科大学

整形外科 部長 南 和文 (みなみ かずふみ)

オリンピック招致活動も盛んになり、2020年の東京開催が現実味を帯びてきております。今までにも東京、札幌、長野とオリンピックが開催されるたびに、スポーツ医学への関心が高まり、また進歩も見られています。

最近ではスポーツ傷害で受診される小学生からも、「先生はスポーツドクターですか」と聞かれることがあります。その都度スポーツ医学やスポーツ整形外科が認知され、浸透してきたことを痛感致します。

ところでこのスポーツ医学発祥の起源が、本学に有る事をご存じの先生は少ないと思います。日本で最初のスポーツ医学論文は、日本医科大学整形外科初代教授斉藤一男が、昭和4年に書いた「スクラムスコリオーゼ」と

言われております。これはラグビーでスクラムを組む選手に、脊柱側弯症がみられるとする論文です。また、最初の口演発表としては、斉藤一男教授が昭和10年に発表した「スポーツと整形外科」だとされております。これは日整会総会での宿題報告で、膨大な資料を使っでの発表であり、まだスポーツ医学が黎明期も迎えていない時期によくぞここまで感じるものです。その後は東京大学や警察病院等とともに、当教室の先輩の発表が相次いでみられ、学会をリードしておりました。

さらに第2代教授高木憲次（東京大学名誉教授）は、1918年膀胱鏡を用いて世界で初めて屍体の膝関節の中を観察し、1922年世界初の関節鏡を創作しました。これがのちの東京通信病院渡辺正毅博士の21号関節鏡につながっております。スポーツ医学にはなくてはならない関節鏡は、世界に誇れる発明です。この関節鏡の歴史に当教室も関わっていたことは、誇らしいことですが、今や若い教室員には知らない者も多くおります。

当教室では色々な競技の現場にも出向き、診療経験を積んできております。スポーツ傷害のうち、スポーツ専門医が診たほうがよいのは15～20%と言われております。私どもは先輩の築いてくれた伝統を基盤に、スポーツする者の身になって治療をしてまいっております。

何かの折にはご紹介できれば幸いです。



日本医科大学整形外科初代教授
斉藤一男



日本医科大学整形外科第2代教授
高木憲次





千葉県における医療事情と高齢化について

医療連携支援センター・センター長補佐 **鈴木 順一**（すずき じゅんいち）

平成11年に医療連携室が当院に発足して以来、組織変更を重ね今年で14年目を迎えることになりました。当医療連携支援センターでは充実した対応を図るべく、各職種において日々試行錯誤しながら業務をおこなっております。

このたび当医療連携支援センターのセンター長に小林脳神経外科部長を迎え、江本副センター長（内分泌内科部長）、畑副センター長（集中治療室部長）、看護師2名、医療ソーシャルワーカーも欠員が生じておりましたが1名が加わり5名、事務職員3名体制で業務を行っております。医療連携支援センター職員一同新たな気持ちで努めてまいりたいと思っております。

ところで、マスコミ報道等では久しく、医師不足、看護職員（看護師・准看護師・助産師・保健師）不足、介護職員不足が叫ばれておりますが、平成22年の厚生労働省の報告によると、人口10万人の対医師数は全国平均では219.0人ですが、千葉県における医師数は164.3人（47都道府県別では45位）です。また、看護職員数も人口10万人の対看護職員数は全国平均では1,089.9人ですが、千葉県における看護職員数は758.1人（47都道府県別では46位）です。医師数と同様に看護職員数も極めて不足しています。

また、先ほどの総務省の推計によると65歳以

上の人口は3,074万人で、初めて3千万人を突破し前年から102万人増え、総人口に占める割合は0.8ポイント多い24.1%と過去最高を更新したそうです。さらに、平成22年の国勢調査によれば、千葉県における人口の高齢化率は、21.5%と全国41番目ですが、高齢者人口の伸び率は、埼玉県に次いで全国2番目と急速に進んでいるようです。

大変厳しい統計データが示されるなか、本年度に入ってから当院にも遠方の医療圏からのご紹介も増え、これまで以上に地域連携が重要になってまいりました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



日本医科大学千葉北総病院の理念

I 日本医科大学の教育理念と学是

教育理念：愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成
学 是：克己殉公（私心を捨て、医療と社会に献身するとの意味）

II 病院の理念

患者さまの立場に立った安全で良質な医療の実践と人間性豊かな良き医療人の育成

III 病院の基本方針

1. 患者さまの権利を尊重します
2. 患者さま中心の医療を実践します
3. 患者さまの安全に最善の努力を払います
4. 救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担います
5. 地域の保健・医療・福祉に貢献するため、基幹病院としての役割を担います
6. 全ての人のために健康情報発信基地を目指します
7. 心ある優れた医療従事者を育成します
8. 先進的な臨床医学研究を推進します

患者さまの権利

1. 人間として尊重され、平等で最善の医療を受けることができます
2. 患者さまの医療における安全は保障されます
3. ご自分の病気、受ける医療について、十分理解できるよう説明を受けることができます
4. 説明を受けた医療について、ご自分で選ぶことができます
5. ご自分の診療記録を知ることができます
6. セカンドオピニオンを希望される場合は、必要な情報提供を受けることができます
7. 患者さまの個人情報を守られます

治験推進室紹介

治験推進室 主任 **荒木 綾子** (あらかき あやこ)

清秋の候、諸先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当治験推進室が2004年に設置されて今年で9年目になります。治験推進室では治験や研究を院内で実施する為の“治験事務局“業務とそれらの研究が倫理的・科学的・安全性を担保として行われているか審査を行う”治験審査委員会”業務を行っており、現在は新規・継続を含めて年間20件前後の治験と研究を実施しております。

国としてドラッグラグ解消を目指した施策等により、若干の改善（治験実施期間及び審査期間の短縮等）が見られ、啓蒙活動の結果、「治験」や「臨床研究」の言葉を随分と目や耳にする機会が増えてまいりました。また、治験に対してとても積極的な患者さまも増えていきます。以下のような内容のお問い合わせを頂くこともございます。「〇〇の病気の治験をやりたいが、貴院では実施

しているか」、「他大学で実施している治験に参加したいので、紹介状を書いてほしい」、「テレビでやっている研究に自分も参加したいが、ここではやっているか。または、どこでやっているかを知りたい。」などなど。本当にテレビやインターネットの威力はすさまじいものがあります……。

治験に参加いただいている間も治験中は飲める薬や来院回数などの制約が多く、患者さまにも、併診している医療機関の先生方にもご協力いただくこともございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

有効でより安全な新薬を創り出す一端を担えるよう努力して参りたいと思いますのでご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成 24 年 10 月

催し一覧

平成 24 年 12 月

第 1 回胸やけ・つかえ感教室

〔日 時〕 平成 24 年 10 月 6 日 (土) 14:00~15:30
 〔講 演〕 最近話題の逆流性食道炎
 〔演 者〕 消化器内科部長 岩切勝彦
 〔場 所〕 2 階 大会議室
 〔主 催〕 日本医科大学千葉北総病院消化器内科
 〔連絡先〕 内科医局秘書

パーキンソン病研究会

〔日 時〕 平成 24 年 10 月 10 日 (金) 時間未定
 〔場 所〕 2 階 大会議室
 〔共 催〕 協和発酵キリン
 〔連絡先〕 脳神経外科 篠塚

脳神経外科 特別講演会

〔日 時〕 平成 24 年 10 月 15 日 (月) 18:00~19:00
 〔座 長〕 脳神経外科教授 小林士郎
 〔講 演〕 日本医科大学の歴史について
 〔演 者〕 日本医科大学史料館 (仮称) 設立準備室長 殿崎正明
 〔場 所〕 2 階 大会議室
 〔共 催〕 千葉北総病院脳神経外科・看護部
 〔連絡先〕 脳神経外科 篠塚

オープンセミナー「褥瘡ケア」スキルアップコース

〔日 時〕 平成 24 年 10 月 17 日 (水) 17:15~19:15
 〔講 師〕 形成外科医 香西達一
 皮膚排泄ケア認定看護師 渡辺光子
 日本褥瘡学会認定師 / 看護係長 花澤みどり
 〔場 所〕 災害研修センター
 〔連絡先〕 医療連携支援センター
 〔申込締切〕 平成 24 年 10 月 1 日 (月)

第 16 回北総整形外科カンファレンス 整形外科病診連携会

〔日 時〕 平成 24 年 11 月 1 日 (木) 18:45~20:45
 〔紹介例〕 整形外科 岩下 哲
 〔座 長〕 住吉整形外科院長 住吉和夫先生
 〔特別講演 1〕 骨粗鬆症を伴う上腕骨近位部骨折の治療 (仮)
 〔演 者〕 整形外科講師 橋口 宏
 〔特別講演 2〕 脊髄損傷不全麻痺・腕神経叢麻痺の新しいリハビリテーション
 〔演 者〕 リハビリテーション科教授 原 行弘
 〔場 所〕 ウィシュトンホテルユーカリ 5F
 ロイヤルウィシュトン
 〔共 催〕 印旛市郡医師会・MSD 株式会社
 〔連絡先〕 整形外科

認知症市民公開講座 2012 ~気になるもの忘れ、知って得る認知症のはなし~

〔日 時〕 平成 24 年 11 月 10 日 (土) 14:00~16:00
 〔特別講演〕 認知症で知っておきたいこと
 〔演 者〕 神経内科准教授 駒場祐一
 〔座 長〕 脳神経外科教授 小林士郎
 〔場 所〕 日本医科大学看護専門学校 講堂
 〔共 催〕 印旛市郡医師会・エーサイ株式会社・ファイサー株式会社
 〔連絡先〕 脳神経外科 篠塚

第 75 回千葉北総神経放射線研究会

〔日 時〕 平成 24 年 11 月 16 日 (金) 19:00~
 〔場 所〕 2 階 大会議室
 〔連絡先〕 脳神経外科 篠塚

第 22 回医療安全管理講習会

〔日 時〕 平成 24 年 11 月 20 日 (火) 17:30~18:30
 〔講 演〕 パソコンのこわい話 Part 3 (仮題)
 〔演 者〕 医療情報室室長 秋元正宇
 〔場 所〕 日本医科大学看護専門学校 体育館
 〔主 催〕 医療安全管理委員会・医療連携支援センター委員会

脳神経外科 特別講演会

〔日 時〕 平成 24 年 12 月 7 日 (金) 19:00~
 〔講 演〕 転移性脳腫瘍に対するガンナイフ治療
 〔演 者〕 築地神経科クリニック
 東京ガンユニットセンター 芹澤 徹先生
 〔場 所〕 2 階 大会議室
 〔連絡先〕 脳神経外科 篠塚

編 集 後 記

暑い9月も終わり、過ごしやすい秋を期待していますが、最近の異常気象には恐怖さを感じます。恐怖といえば、政治に係るニュースが毎日堪えません。我々医療従事者としては余計なことを考えず、住民の健康増進と地域医療の充実だけに取り組みたいところですが……。いや、何事にも期待しましょう。

(広報委員会委員長・医療連携支援センター副センター長 畑 典武)



本広報誌についてご質問あるいはご意見のある方は下記までご連絡下さい。

日本医科大学千葉北総病院 医療連携支援センター

〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715

電話 0476-99-1810 / FAX 0476-99-1991

e-mail: hokusou-renkei@nms.ac.jp

編 集 : 日本医科大学千葉北総病院

広報委員会、医療連携支援センター

印 刷 : 伊豆アート印刷株式会社

発 行 : 2012年10月 (季刊誌)